

氏名	鈴木玲子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	人間工学 看護技術教育 看護教育 緩和ケア				
学位	修士(リハビリテーション)				
学歴	1999年筑波大学大学院教育研究科(カウンセリング専攻)修了、2015日本大学大学院理工学研究科(医療・福祉工学専攻)満期退学				
経歴	1992東京女子医科大学看護短期大学助手 1998東京女子医科大学看護学部助手 2000埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 2005埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授 2007埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授 2009埼玉県立大学保健医療福祉学研究科(前期課程)准教授 2011埼玉県立大学保健医療福祉学部および保健医療福祉学研究科教授 2013埼玉県立大学地域産学連携センター副所長 2015埼玉県立大学保健医療福祉学研究科(後期課程)教授 2016埼玉県立大学学長補佐				
所属学会(役職)	日本看護研究学会(評議員)、日本人間工学学会(監事、代議員)、日本人間工学会関東支部(委員、選挙管理委員長)、日本ヒューマン・ケア心理学会(理事)、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会(理事)、日本看護学教育学会、日本人間工学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本保健科学学会、日本看護学会				

### 【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	がんサバイバーを支える緩和ケア・サロン	共著	青海社:p.186;P.166-169	埼玉県立大学緩和ケア研究グループ	2015
	がんサバイバーを支援するキャンパス型緩和ケアサロンの形成過程	共著	保健医療福祉科学(2186-750X)4巻 Page1-5(2015.03)	常盤文枝、大場良子、菊地悦子、川畑貴美子、金子潔子、鈴木玲子、筑後幸恵、星野純子	2015
2	【自己解決力を高める Team-Based Learning】実践・課題・展望 PBL教育からみえてきたTBL教育の意義	共著	青海社:p.186;P.166-169	鈴木玲子、常盤文枝	2015
(2) 論文					
1	がん体験者を支援する市民サポーター養成に関するニーズ調査	共著	保健医療福祉科学;5;P18-24	○佐伯理絵、鈴木玲子、大場良子他	2015
(3) 学会発表					
1	PBL・TBL混合型教育プログラムの評価-批判的思考態度と社会人基礎力の視点から-	共著	日本看護学教育学会第25回学術集会、徳島市	○常盤文枝、鈴木玲子、大場良子、山口乃生子	2015.7
2	PBL・TBL混合型教育プログラムの評価-グループ学習による課題解決能力の評価尺度-	共著	日本看護学教育学会第25回学術集会、徳島市	大場良子、鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子	2015.7
3	交流セッション1 課題解決力を育てる授業をいかにするか-Team Based Learningの実践と評価-	共著	日本看護学教育学会第25回学術集会、徳島市	○鈴木玲子、常盤文枝、齋藤美紀子他	2015.7
4	がん体験者を支援する市民サポーター養成のニーズ調査	共著	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会第6回学術集会、越谷市	○佐伯理絵、鈴木玲子、大場良子	2015.10
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	看護師のキャリア開発に資するPBLを活用した教育プログラムの検証(研究代表者)		2014.4~2018.3	
2	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究)	学士課程のQODをめざした緩和ケア教育モデルの開発(研究分担者)		2015.4~2017.3	
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	成人看護学 I(概論)	2015.10~2016.12	学生が主体的に学習できるアクティブ・ラーニング手法を導入した授業を実施し、受講生からも好評な反応が得られた。		
2	看護研究	2015.10~2016.2	研究倫理を含む看護研究の基本を、複数の教員によるオムニバス方式で講義した。今年度は文献クリティークの演習時間を増やした。		

3	社会構想論	2016.1	埼玉県立大学の産学連携活動について講義した。学生の反応は、大学の社会貢献活動への理解の高まりや関心をもつきっかけになっていた。	
4	基礎看護技術・看護工学	2015.4～2015.7	工学的な視点を取り入れた看護研究を紹介しながら、研究手法への理解を深めるとともに、看護技術の教育方法に関心をもてるように講義した。	
<b>(2) 演習</b>				
1	成人看護学Ⅲ(急性期)	2015.10～2016.2	課題解決能力を目指した教授方法としてTBLやPBLチュートリアルを取り入れて授業を実施した。また演習ではシミュレーション機器を活用して、看護技術習得を目指して教授した。	
2	看護学演習(基礎看護技術・看護工学)	2015.10～2016.1	探求したい研究テーマを検討するために、文献検索とクリティーク、研究計画立案のディスカッションで実施した。受講学生が少ないため、成人看護学の講義と合同で実施した。	
<b>(3) 実習</b>				
1	成人看護学実習Ⅰ	2015.4～2015.6	3年次生を対象に、外科病棟での8週間において、学生の理解度に合わせた指導を実施し、学習到達目標を達成することができた。	
2	成人看護学実習Ⅲ	2015.9	3年次生を対象に、災害時の応急処置方法について指導し、支援技術の基本を習得させることができた。	
3	IPW実習	2015.6～2015.10	医療機関をフィールドに、教員ファシリテータとして学生を指導した。実習施設のファシリテータ達と協力して、学生のIP学習を支援でき	
<b>(4) 論文指導</b>				
1	修士課程	2015.4～2016.3	主指導:2名	
<b>(5) その他</b>				
1	埼玉県立大学認定看護師教育課程(緩和ケア)	2015.10	科目「緩和ケア総論」において、対象を理解するために活用できる中範囲理論について講義を担当した。	
<b>4. 社会貢献活動</b>				
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県看護協会第9支部 第25回看護研究発表会	講評		2016.1
2	埼玉県立常盤高等学校スーパープロフェッショナルハイスクール事業	運営指導委員		2014.4～2019.3
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>				
1	埼玉県立大学地域産学連携センター副所長			
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
<b>7. 特許の保有状況</b>				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
<b>8. 特記事項</b>				
1	該当なし			